

会 議 録

会 議 名	第 6 回富山市文化財保存活用地域計画協議会
開催日時	令和 7 年 12 月 16 日（火）午後 2 時 00 分～午後 3 時 45 分
開催場所	Toyama Sakura ビル 6 階 研修室
主 催	富山市教育委員会生涯学習課
出席委員 (9 名)	富山市文化財保存活用地域計画策定協議会委員 今村委員、上野委員、菊川委員、齊藤委員、鈴木委員、関野委員、中村委員、前川委員（代理出席：富山県教育委員会生涯学習・文化財課 越前副主幹）、藪谷委員
欠席委員 (1 名)	島添委員
事 務 局	教育委員会：生涯学習課長、埋蔵文化財センター所長、民俗民芸村主幹学芸員（村長代理）、郷土博物館主幹（館長代理）、その他 4 名 ※令和 7 年度富山市文化財保存活用地域計画策定支援業務委託受託業者として、国際文化財株式会社社員 2 名
議 題	1 開 会 2 議長挨拶 3 協議事項 計画素案（案）について 4 閉会
資 料	配布資料のとおり
作 成 者	国際文化財株式会社

会議経過

- 1 開会
- 2 議長挨拶
- 3 協議事項

計画素案（案）について【資料】

事務局より富山市文化財保存活用地域計画素案（案）についての説明。
 国際文化財株式会社より未指定文化財の分類・件数について説明
 事務局より未指定文化財の分類等について補足説明

〔質疑応答〕

議 長：12 頁をはじめいくつかの箇所に「飛騨山脈（北アルプス）」とある。特に富山県という立山連峰というイメージ。飛騨では高山をイメージする。地理的表記では富山県民、市民からすると立山連峰という呼称がイメージに合っていると思う。

委 員：10 章の推進体制で色々な組織、団体等を列挙しているが、推進体制なので体制がどうなっているのかということを示す必要がある。例えばどの主体が何を担うのか、どの主体がどういう関係性なのか。今後どのようにされるのかお聞きしたい。

事 務 局：計画の中で（文化庁から）必ず書くようにと言われているのは専門職員の配置状況。他の自治体では今仰られたように、例えば行政であればどういう業務を行っているかを全部書いているところもあるし、行政と民間団体、専門家などのそれぞれがどういう関係性を持っているのかを図で示しているものもある。今ご指摘いただいたような内容がパッと見て分かるようにしたい。検討していきたい。

委 員：取り組み主体を表で整理しているが、これはパターンで整理するといくつかのパターンで分類できると思う。例えば市民の場合、行政の場合といった具合に整理されているとパターンによる取組体制の違いを示せるのではないかと思うがいかがか。

事 務 局：いくつかパターンを書いた方が良いということか。

委 員：そう。例えば行政が主体にあるパターンというものは、市民に関わりが薄いものもあるかもしれないし、一方で市民が主体となるものについては行政は支援として関わっていくとなるとフォーメーションが変わってくると思う。それを一つの図で表せるかどうか。措置の取り組み主体を類型化して類型ごとに体制を明記すると分かりやすいのではないかと思う。

事 務 局：措置の内容を見ながら分類してみてどういったことが言えるのか、それを図で表すのが良いのか、文章で表すのが良いのかすぐには思いつかないが検討したい。

委員：先ほど委員長からご指摘があった「立山連峰」という表記については最初の頁に出た後、25 頁に出てきてそれ以降は「立山連峰」の表記になっている（それ以前は飛騨山脈と表記）。飛騨山脈（北アルプス立山連峰）と書くのか、それとも言い方をどこかにある程度絞り込んだ方がよいのかなと思う。飛騨高地、飛騨山地というのもあるので使い分けをした上で書いた方がよいと思った。

いくつか説明の中に出てくる地名が唐突に出てくるものがある。県内の地名であれば致し方ないと思うが、例えば 15 頁の下の「常願寺川の源流は」というところで、北ノ股岳とか大鳶山・小鳶山が唐突に出てくる。北ノ股岳は河川図の方に出てくる。これを見れば山の名前が出てくるというような工夫が必要かなと思った。

後、他の自治体の地域計画で文化庁から指摘があったことだが、「等」という記述が多い。「等」とあるのは何かという指摘がしばしばあった。行数の問題もあるが、5 つ 6 つというように沢山あるのであれば「等」で良いが、1 つ 2 つであれば例示したほうが良いという指摘もあったので、「等」という表現についてはご検討いただきたい。例えば 28 頁の観光の箇所「工場見学などの産業観光施設など」とあって、この「など」にどういうものが含まれているのか。工場見学以外に多数あるのであれば、「等」で良いが一つ二つであれば書いた方がよい。「など」が行中に連続しているので余計に違和感がある。それと指定や登録の文化財の表記の仕方、重文、重要文化財、国重文というように表記ゆれがあるので統一したほうがよい。

それと、意識してやっておられるかどうかというところはあるが、鮭、鮎は漢字表記でサクラマスはそうではない。もしもそうでないのであれば、サクラマスを漢字にするのは違和感があるのでカタカナで統一した方がよい気がした。

先ほどの関連文化財群のところではイタイイタイ病の話があったが、文書もあるが石碑も各地にある。この地域でイタイイタイ病が発生したという分布を示す指標になりうると思う。もしもイタイイタイ病の石碑が入っているのであれば良いと思う。

事務局：その場合、イタイイタイ病の石碑はどの分類になるか。歴史資料になるのか、遺跡になるのか。

委員：痕跡というものでなくて、あくまでエリアの事象を表すものという

ことで歴史資料で良いかと思う。関連文化財群は何を入れるかどこまで入れるのかが難しい。全部入れるときりがないので、何をやっていくかという施策の部分で選んでいくことになる。今回はこの文化財を関連文化財群として選んで、それに関する施策を展開していきますとしておいて、次の際には（どうするか）という感じでやっていくのが良いと思うが、イタイイタイ病に関しては文化庁の方も是非という話もあったので、入れておいた方が良いかと思う。

事務局：先ほどの立山連峰と飛騨高地については、執筆者が違うので調整が出来ていないものもあるが、地形については自然科学の専門職員が書いたところ。正しく書いたらこうなったということ。そこをどこまで調整する出来るかというのはわかりやすく意味が通じるようにということを心掛けていきたいと思う。

議長：山があって川が出来るので、河川図に山、例えば文中に出てきている山の名前を記入すればより読みやすいと感じた。後は文化財の指定については一般の人には分かりにくい。国指定などと書いた方がわかりやすい。

委員：素案の 29 頁下から 10 行目、「本市は県庁所在地であることから、県立の博物館・資料館等が点在」とあるが、富山市内に県立博があるかな？と思った。埋蔵文化財センターが最近キャッチコピーで考古学の博物館とつけられているがそこがやや分かりにくかった。市の博物館資料館が列記してあって、次の 30 頁に文化財施設がある。安田城と北代の遺跡の資料館のうち、資料館の方に安田城が入っている。パッと思いつくのは安田城資料館で、29 頁の方に入れても良いのかなと思った。関連文化財群で「川と闘い、川と生きる」とあるが、その通りだと思うが「十万石の富山城下町」というのが少し寂しい。薬と少し被ると思うけども、そこが寂しい気がする。

事務局：29 頁の県立の博物館資料館等については、「博物館・美術館・資料館（以下、「博物館・資料館等」）としていて、美術館も含めて博物館・資料館という文脈で書いている。安田城・北代遺跡については、ご指摘いただいた部分もあるが、今回は文化財というところをメインに置いて③に入れている。最終的に地図には全て載っているという形にしている。措置表においては、これらについて、史跡公

園であるということから、文化財の活用として書いている。「十万石の富山城下町」については、歴史文化の特性の方では56頁の都市富山の発展というところでは示しているが、関連文化財群を設定する時は最終的な措置、取り組みを何をするかというところまで書く必要がある。残念ながら「十万石の富山城下町」に関する取組は少なかった。ただ、薬の関連文化財群の中で「十万石の都市を支えた」というような文言を入れることは出来るかと思う。

委員：素案の2頁の上の図の中で総合計画や振興基本計画から矢印が出ていて「反映」とあるが、文章を読むと1頁目では「整合」という言葉が使われている。なので、「反映」ではなくて「整合」とするのが正しい。別に上位の計画があるにはあるが、策定の時期がズレたりするので、必ずしもそれを「反映」するわけにはいかないの、それは辻褄があうように調整をするという意味での「整合」ということであろうかと思う。措置の表の実施期間を前・後で分けて示しているが、殆ど前期も後期も一緒ではないか。あまり分ける意味がない気がする。この計画には出ないだろうけど具体的にどれくらいの費用を考えているか。今までいろんなことをやってるいるがそれと違うのか。これを計画することによって（どう変わるのか）。新しい事業がいくつか出てきているのでそれをやろうと思うと当然お金もかかる。総じてどれくらいかかるのか。

事務局：期間の書き方までは指定されていないが、期間は必ず書くようにとされている。各部局にも照会したがほとんど（の事業）が恒常という回答があった。そうしたことから、どのように書くかということで最低限前期・後期と分けているのが現状である。事業費の問題については今すぐにはお答えできないが、新規のところではどれくらいかかるかということになるかと思う。そういうことも念頭に置きながら考えたいと思う。素案でも国の補助や交付金を使って行っいきますという説明をしているので、いくつか国庫事業を念頭におきながら書いているところもある。書く書かないは別にしてお答えできるような形にしておきたいと思う。

議長：実施で行う時にはそれぞれ検証を行うとも書いてあった。短期で行う場合などはいつからいつまでって書いて、達成率とかを報告をするようになっていたと思うが。

事務局：計画中の見直しであったり確認は、簡単にではあるが（素案）序章の８頁に書いている。「本計画に記載した取組については、本市が主体となって実施するものは進捗状況等の自己評価を実施します。」と記している。毎年実施する予定であるが、それをふまえて大幅な見直しがある時は途中での見直しをする。途中の見直しがなくても、次期計画作成の際には評価をふまえて作成をする。

委員：先ほど少しご指摘があったが、最終的に誰がチェックするのか。読み方とかおかしいなと思うところがある。例えば数字が全角なのと半角なのが混在している。「7 大河川」の「7」が全角になっていたり、「SDGs」は全角なのに「JR」は半角になっているとかいうのがある。後は６頁の⑧２行目の『』内の表記で、「『静』、『健』、『結』」のように読点が打ってあるが、⑨の３行目の「『住み続けたい』『帰ってきたい』『貢献したい』」では読点がない。ほかに同じく⑨の太字部の「計画期間を定めず」とあるが「ず」のみ改行している。左詰めにするか、一行にするか。一度最終的な校正、チェックをした方が良かった。

事務局：必ず複数の目で確認はするようにする。協議会の最初の方で子供たちに伝わるような、子供たちも読めるような内容にしてほしいというご意見もあったかと思う。今の状態では厳しいと思うので、用語の使い方、言葉の選び方、フリガナ、そういうところの統一を図って補正を進めたいと思う。

議長：まだ文章、段落などを整えた方が良くのと思うが、最終的に直されると思う。よろしく願いたい。

委員：60 頁素案の方向性の２つ目、「まちの賑いに貢献する」とあるが、どういう意味とか意図を以て使われているのか。

事務局：この「まちの賑いに貢献する」と書いてことについて、現在岩瀬地区の旧森家住宅などを公開しているが、この取組について、文化財をただ見せるだけでなく、文化財を活用したいろいろな活動を通じてまちの賑わいや観光に貢献するものと従来説明していることから、この文言を参考にして「まちの賑わい」と表記した。

委員：人が集まればいいみたいな感じに捉えられる気がしている。文化財の活用ってそういうパターンもあるが、例えば市民の方の誇りを醸成することもあるだろうし、地域の価値化をすることもあるかもしれない。何かまちづくりの分野でも賑わいという言葉はキーワードで、結局何も示してないと捉えられることもある。この辺りをどういった意図があるのか別の言葉に置き換えられるのであれば、置き換えた方がいい。方向性Ⅱでやろうとしていることと整合性が取れるように。

事務局：検討してみる。

委員：毎年チェックするというような話があったが、チェックする指標は記載されるのか。数値なのか実績評価なのかわからないけども、それを示さないと都合よく評価することも出来る。そこはどう考えておられるか。

事務局：文化財の場合は数値で示せるものもあれば、示せない部分も多いと思っている。他の部局とも協力してやっているなかで、振り返りの時に細かいところまで評価するのは難しい。他の自治体の地域計画での振り返りなどをみていると数値目標を設定しているところもあれば、そうではなくて、どのように実施しているかしていないか、どこまで実施できたかを毎年自己評価しているところもある。現状としては、目標を数値化して出すというのは全部というのは厳しいと思う。

委員：計画に適した評価方法というのはあると思う。ただ評価方法を示さないというところは何か検討された方が良かったと思った。例えば毎年振り返ると仰ったが、具体的に誰が振り返るのか、各部局にお願いして振り返るのかとか。後はどういう視点でチェックするのかということもある。市民アンケートのようなものはされているのか。

事務局：何年かに一度施策についての市民アンケートをしている。57 頁に市民意識調査というのを載せている。毎年ではないが、何年かに一度やっていて、総合計画の施策の取り組みに関して満足か、不満か、住み続けたいか、または住み続けたくない理由を書くところがある

ので、こういうものを活用してどういう変化があるかというのを捉えることは可能かと考えている。それは次期の計画策定に向けてということになるかと思う。

委員：まさに伝統的文化遺産の活用というようなこと、こういうところ（57 頁）を上手く使うのも手。ただこれだけでは測れないことは沢山あると思うし、これが全てではないので、こういうものと例えば実施した施策の数とか、何かしら評価についてはご検討いただきたい。

事務局：承知した。

議長：確かに他の自治体で 50%完了だとか 100%完了だとか書いているところもあれば、はっきり書かないところもある。なるべく色んな事業も出てくると思うので、特に文化財の未指定の調査などはある程度分かるようにして、市民の皆さんに分かってもらえるようにしておくのが良いと思う。

議長：46 頁の文化的景観で富山市は海沿いと山、冒頭で深海から山まで取り上げているが、山田村の棚田とか、梨畑、それと伝統的建造物群があるけど、富山らしさの中には山村景観、散居景観が富山扇状地の中間部分に集中している。砺波が富山では有名だけど、富山市の中にもある。立山の借景だとか、呉羽山からみる景観といったものも富山市の特色かなと思うので入れてもらえたら。

事務局：ここに掲載しているものはどこから持ってきているかというと第 4 章の把握調査で取り上げられているものを入れている。例えば三乗の棚田とか梨畑は富山県でやっている名勝百選に出てくるようなものにあたる。既に把握できているところを紹介している。例えば散居景観などは本には出てこないで、今後の把握調査の課題として出てくるかと思う。

4 閉会

事務局より閉会の挨拶。